



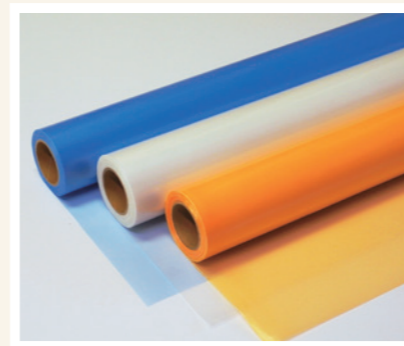
社屋外観



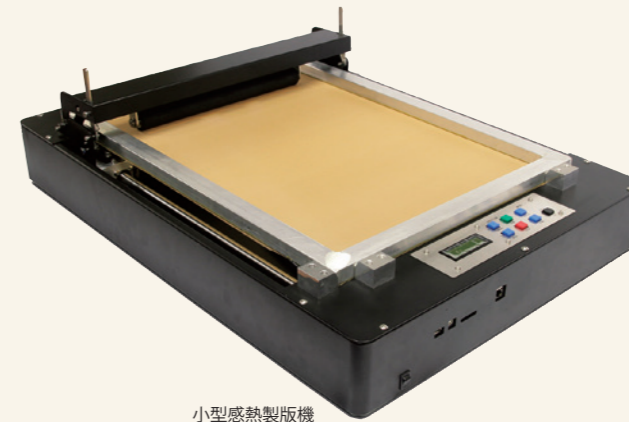
株式会社 色素オオタ・オータス



インク 20色



感熱製版フィルム



小型感熱製版機

キラッとひかる
企業の知恵を
ご紹介

知恵

キラリ

挑戦から生まれた 短納期・低コスト・簡単手軽な製版システム



代表取締役の太田有亮さん

株式会社 色素オオタ・オータス

代表者/太田 有亮
住 所/京都市中京区猪熊通錦小路上路下瓦町 558
TEL / 075-811-8888
URL / <http://www.ohtas.co.jp/>
事業内容/染料・顔料・特殊インク等の製造販売、
製版に関連する機材・材料の製造販売

他業界のお客さまの悩みを 自社技術の転用で解決

もともと、着物を染める染料・顔料の加工・販売からスタートしたが、呉服業界の縮小とともに、新たな事業にチャレンジしていく必要があった。「お客さまの困り事に耳を傾けることで、自社商品の幅を広げてきた」と太田有亮代表取締役。例えば、ある消防署から「出初式で放出する水を着色したいが、何か良い方法はないか？」という相談を受けたのをきっかけに、これまでのノウハウを活かして何種類もの食用染料を混ぜ合わせた濃縮インクを開発。好評だったことから規格商品として売り出したところ、

要望に応じて、自社技術やノウハウを転換して他業界で活用することで、新たな用途の発掘につなげている。

プリンター感覚の製版システムで 工業印刷の活用の幅を広げる

今、工業製品に表示されている文字や数字、ロゴのほとんどはシルクスクリーン印刷が使用されているが、版を製作するのに乳剤を使うため、専門知識や大きな設備が必要で、納期もコストも高かった。「小ロット生産に対応する低コスト・短納期の新しい製版方法はないかと、お客さまから相談があった」。

同社は、乳剤を塗布する代わりに、フィルムを熱で溶かして製版する感熱製版に注目。従来、はがき印刷など一部市場で用いられていたが、サイズが限られていることや、工業用に使用される油性インクを使用することができない等の問題点があった。「この感熱製版が工業用の油性インクに対応すればあらゆる用途に使用できるようになり、商機が生まれるのではないかと、研究を重ね、厚さわずか数ミクロンの

フィルムと紗（スクリーン）をしわやひずみなく張り合わせる技術を独自に開発し、どんなインクでも使用できる感熱製版フィルムを生み出した。これにより、工業製品への活用の幅が大きく広がった。感熱製版機とセットで使うことでどのような素材にも簡単・手軽に印刷できるのが魅力で、これまでに社内でもスクリーン製版を行うことが難しかった小規模事業者だけでなく、例えば試作開発などで何度も作り直しが必要なメーカー等へのアプローチも期待できるだろう。特許も取得し、「埋もれた需要を掘り起こし、乳剤製版のマーケットに切り込んでいきたい」と意気込む。

強みを見出し 新機種の開発につなげる

今年1月に経営革新計画の承認、3月には京都府「元氣印」中小企業の認定を受けた。申請書の作成を担当したのは、入社間もない息子の成嵩さんだ。「当社にはどんな強みがあって、今後どのような事業計画を立てていくのか、現在どのような仕入先や販売先とお付き合いしているのか。将来の事業承継という意味も含めて整理することができた」と振り返る。

現在、感熱製版フィルムだけでなく、長尺物にも対応できる大型デジタル製版機の開発を進めている。公的制

解説

知恵のポイント

困り事や悩み事の中に商機を見出す

「お客さまの困り事・悩み事の中にこそ、新たなビジネスのヒントが埋もれている」という視点でアンテナを巡らしてきた同社は、他社が真似できないような独自の技術を有する企業を目指して、新たな事業を手掛けてきました。

最近、オーダーメイドでTシャツを作りたいというニーズが増えていますが、その多くが学校のクラス単位やクラブ等チーム単位の小ロットです。ちょっとした文字やロゴを製版するときでも、社内では対応できず専門事業者へ外注することになり、結果的にコスト高で、余計な納期がかかってしまいました。「何とかならないか」という声に対し、工業印刷は乳剤を使うのが当たり前、外注しかないやり過ごしてしまったのでは、そこから何も生まれません。顧客のニーズに即した同社の挑戦は、現場の課題解決につながる独自技術の開発へと結びつきました。同社の感熱製版システムは、Tシャツショップだけでなく、和菓子メーカーやスポーツ用品メーカーなどで幅広く活用され、【色素オオタ・オータス】×【お客さま】×【エンドユーザー】のトリプルWINを実現しています。

高め、お客さまの課題解決に徹することです。新たな事業展開につなげた。従来の乳剤を使用した製版システムに代わり、オータス式の感熱製版システムが世界標準に……。そんな夢が膨らんでいく。